

だいきく通信 第三十三号 「春の号」

いあつちつ

新しい年を迎えました。今年は例年になく気温が低いお正月でした。そして一月も下旬に入った二十二日、都心でも久しぶりにまとまった雪が降り、十センチほども積まりました。交通機関にもかなり大きな影響が出て、改めて東京が雪に弱いことを思い知らされました。以前から異常気象なども懸念されています。大都市における自然との付き合い方も、取り組むべき課題だと考えた次第です。

本年もなにとぞご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。社報「だいきく通信」第三十三号をお届けします。

今回の内容は、催し物の予告、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」などです。連載まんがでは新しい仲間が早速大活躍しています。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

○雑誌『散歩の達人』に当神社が紹介されました！

雑誌『散歩の達人』（交通新聞社）2月号は「大特集 巣鴨・大塚・駒込」と銘打って、当神社の鎮座地駒込と、近隣の巣鴨、大塚を取り上げています。その中の「駒込ジミヘン縁起巡礼すごろく」という記事で当神社が紹介されています。「ジミヘン縁起」とは「地味だけどちゃっと変わった縁起物」のことだそうです。当神社を振り出しに豊島区駒込から文京区本駒込にかけての神社・仏閣をすごろく仕立てで巡るという趣向です。機会がありましたら、書店などでご覧いただければ幸いです。

『散歩の達人』WEBサイト

<http://www.kotsu.co.jp/magazine/sanpo/>

○第七回だいきく落語会、日程が決定しました。

前号でもお知らせしました通り、だいきく落語会の、次回日程が決定しております。次回も古今亭菊之丞師匠をお迎えしての独演会です。

平成三十年五月二十六日（土）午後五時開演

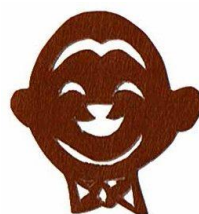


参加のお申し込みは、四月二日の甲子祭から受け付ける予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

○だいいくクラシックスも鋭意企画中！

秋のイベントとして定着してまいりました、だいいくクラシックス、一昨年、昨年と東京都交響楽団の小林久美さんをお迎えして、リサイタルを行ない、ご好評をいただきました。こちらも、現在、今秋開催をめざして鋭意企画を検討しております。どうぞご期待ください。

お宮あれこれ「節分」



今号はちょうど二月一日発行となりました。二月の行事といえは節分、ということで今回は節分についてお話しいたしましょう。

「節分」ということは本来、「季節の変わり目」という意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日をさしていました。「せつぶん」のほかに「せちぶん」「せちぶ」という読み方もあります。この「せち」は「おせち料理」の「せち」と同じで、年中行事の行なわれる日という意味です。

立春など二十四節気については以前本連載でもご紹介しました(第二十五号)が、簡単におさらいしておきましょう。昼・夜がそれぞれ最も長くなるのが「夏至・冬至」、昼・夜の長さがほぼ同じになるのが「春分・秋分」です。この四つを基準として、暦の上での季節の移り変わりが表現されています。この中で、冬の真ん中が「冬至」、春の真ん中が「春分」と考える

と、そのちょうど真中が冬と春の境目ということになり、この日が「立春」とされました。「立春」ということは、古い日本語で「立つ」が「季節が始まる」という意味で使われていたことからうかがわれるとおり、「立春」とは「春の始まりの日」という意味を表わします。そして、その前日が「節分」です。

立春の前日は、二十四節気の始まり、つまり年の初めであることから重要だとされ、節分といえはこの日を表わすようになりました。ちなみに、神社では厄年のお祓いをおこなう際に数え年を使い、節分を年齢を数えるときの基準としています(誕生日が元日から節分前までのかたの場合、数え年に一つ加えて計算します)。これも節分が年の初めだと考え方によるものです。

さて、次に節分の際に行なわれる行事をみてみましょう。節分の行事としては、「追儼(ついな)」や豆まきなどがあります。

まず、追儼というのは古く中国の「周礼」という書物に記されている儀式です。日本では「鬼やらい」「鬼あらい」などと呼ばれることもあります。もともとは、熊(くま)の皮をかぶり黄金の四つ目の面をつけ、黒衣に朱裳(しゅしよう、腰から下にまきつける服)を着た方相(ほうそう)氏という呪師が矛と盾を手にして、宮廷の中から疫鬼を追い出すというものです(次頁写真は平安神宮の儀式)。この追儼は陰陽道の行事として日本に取り入れられました。日本の文献の上で最初にあらわれるのは、文武天皇の慶雲三年(七〇六)に、諸国に疫病が流



行して農民が
おおぜい命を
落としたた
め、土で牛の
像をつくって
大難（おおよ
らい）を行っ
たという記事
です。『延喜
式』などによ



ると、宮中では毎年大晦日の夜に行なわれていたとのことです。この除夜の追儼はおそらく年末に行なわれる「年越しの大祓」の儀式とも結び付いて広まったものと考えられます。現代でも、豆まきが節分の夜に行なわれることがあるのは、かつて追儼が除夜に行なわれていた名残でしょう。

もうひとつの豆まきはよく知られている通り、炒った大豆を打って鬼を追い払うというものですが、もともとは神様へのお供物を撒く「散供」だったのではないかという考え方もあります。この習慣に関しては、鬼を単純に悪い鬼とみるのではなく、悪霊を抑える力強い存在、つまり善い鬼としても捉えているのだという見方もあるようです。

そのほか、節分の行事としてはイワシの頭を焼き、ヒイラギの小枝に刺して、戸口や軒にさす習慣もあります。この習慣は平安時代の「土佐日記」にも記されており、今日でも全国的に見られます。ヒイラギのとげが鬼の目を刺し、イワシを焼く時の強烈なおいが鬼を追い払うとされ、魔除けとして用いられ

たものです。ついにながら、ヒイラギという名前は、「ずきずきと痛む」という意味をあらわす「ひいらぐ」に由来しています。

節分を新しい季節の始まりと考えるにせよ、新しい年の始まりと考えるにせよ、すがすがしい気持ちでスタートを切りたいものです。

〈参考文献〉

『日本大百科全書』（小学館）『日本国語大辞典』（小学館）

『神道事典』（弘文堂）

祭礼・祈祷などのご案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉
電話

○三―三九一八―七九三〇
携帯

○八〇―一九八七―八七二六
eメール

daikokujinja@gmail.com



大吉うさぎ

～神社豆知識 その5～

くま こまち 作

平成三十年四月二日（月） 午前五時～正午

○開運千人講祈祷祭 毎月一日 午前六時～正午まで



次号発行予定

「だいこく通信第三十三号」、いかがでしたか。次号「夏の号」は、平成三十年六月一日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第三十三号 平成三十年二月一日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十二

<http://www.daikokujinja.org>

Panel 1 (Top Left): Rabbit: 今日は、参拜する前に、手水金ご手と洗う時の作法を教えてあげよう。

Panel 2 (Top Middle): Dog: よろしくお願ひします。

Panel 3 (Top Right): Rabbit: 一輪指にやってみよう!

Panel 4 (Middle Left): Rabbit: まず、ひしゃくで水をくって、左手、右手の順に洗うんだよ。

Panel 5 (Middle Middle): Dog: まずは左手を洗って。

Panel 6 (Middle Right): Rabbit: それから右手だよ。

Panel 7 (Bottom Left): Rabbit: 次に、左手に少し水をためて、口をすすぐんだ。この時、ひしゃくに直接口をつけれぬんだよ!

Panel 8 (Bottom Middle): Dog: こんな感じ? いいのかな?

Panel 9 (Bottom Right): Rabbit: そのあと、もう一度左手を洗うんだよ。最初にくった水で、こまごま全部すすぐんだよ!

Panel 10 (Bottom Left): Rabbit: こうして手を洗うのには、じつと体と清める意味があるんだよ。

Panel 11 (Bottom Middle): Dog: なるほど! 身も心もキレイに清めてから、神様にごあいさつする、ということなんだね。

Panel 12 (Bottom Right): Rabbit: こうすると、神様も気持ちよく、おかえくだよ! いただきます!